

令和５年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」 課題・目標・実績・評価について

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

実施 自治体名	課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために 本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
016390_ 更別村	①学校運営 上の課題	社会に開かれ た教育課程へ の対応	学校だけではなく地域 全体で子どもを育てて いく必要がある一方、 教員の多くは業務多 忙により社会や多様 な人々とのつながりを 大切にしながら進める 教育課程に目を向け ることができずにい る。	CSコーディネーター(地域学 校協働活動推進員)が学校 と地域とのパイプ役となり、 教育課程への地域の参画の 調整を行い、また、地域学校 協働活動の取組を広く周知 することで地域の潜在的な 教育資源を発掘する。	地域住民等の参画に より、より専門的且つ 多角的な教育課程を 編成し、地域社会全体 で子どもを育む。 また、CSコーディネ ーターが教育課程に関わ ることで、教員の忙しさを 軽減し、社会に開かれ た教育課程を推進す る。	村内の学校におけ る教育課程が社会 とのつながりを大切 にしていると認識する保護者の割合	0	%	50	87	・今年度、地域学校協働活動を実施する組織である「みんなの学校応援団」(地域学校協働本部)に登録した団体や個人が更に増加した。(1企業、5個人) ・専門的な知識やスキルをもっている地域住民が授業に関わることが増え、子どもたちのより豊かな学びに効果があった。教員も専門的な知識をもっている地域住民に授業を任せることができ、忙しさの軽減につながったと考える。保護者の意識も社会とつながりを大切にしている教育課程を実施していると考えた割合が増えた。 ・今後は継続的・組織的に進めることや、教員についても、子どもの成長を学校と地域で支える意識が高まり、地域の人材や教育資源を積極的に活用し、社会に開かれた教育活動を進めることが必要である。